

春の足音が聞こえてまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

陽気な日差しの中、春一番に

綿雲が流れていきます。

庭を彩る小さな太陽の様に、

丸い金柑の実がたわわに生っています。

今日もいい天気

今夜は、冬から春へと移り変わる漆黒の夜空に、

丸い銀河がたわわに生りそうです。

それでは今月も行ってみましょう。

2025年 2月

【主な現象】

2月 1日	白昼の土星食（京都：第一接触 12時43分）
2月 2日	月が最近（11時47分）
2月 5日	上弦（半月）（17時02分）
2月 8日	水星が外合（23時15分）
2月10日	火星食（福岡：第一接触 5時32分）
2月12日	満月（22時53分）
2月15日	金星が最大光度（8時31分）
2月18日	月が最遠（10時10分）
2月21日	さそり座 π の食（東京：出現 4時03分）
2月27日	木星が東矩（20時52分）
2月28日	新月（9時45分）

【解説】

★ 2月 1日の土星食は、昼間に月齢2.6の月に隠れます。

東京を含め南関東では食が起こりませんが、他の地域は全国的に見られます。

南東の空高度40°の辺りに見えます。日中なので見るには望遠鏡が必要ですが、太陽からの離角が30°程度しか無いので、操作には要注意です。

食の進行（京都）

第1接触	12時43.8分
第2接触	12時45.3分
第3接触	13時14.3分
第4接触	13時15.8分

★ 2月10日の火星食は、未明に月齢11.3の月に隠れます。

北海道、中国地方、北九州で見えますが、月没直前の潜入となります。高度は1°程度しかありません。

食の進行（福岡）

第1接触	5時32.1分
第2接触	5時32.5分
火星没	5時39分

★ 最大光度の頃の金星は、五日月の様な形をしています。

望遠鏡で見ておきましょう。

★カノープス（ α Car）が宵の見やすい時刻に南中する様になります。
南の地平線までよく晴れているとき、南中時刻に真南の地平線の近くを探してみましょう。おおいぬ座の β （前足にあたる2等星）とほぼ同時に南中するので、 β で真南の見当を付けて真っ直ぐ下を探します。
南の地平線まで見えるところで、地平線まで雲が無く澄んだ日にチャレンジしてみてください。

【観望案内】

★接近

- 2月中 ヒヤデス星団と木星が
夕方南の高い空（ 1月01日 1時00分以前）で
かなり接近して見えます。
見ごろは19時00分ごろでしょう。
- ◎ 2月01日 土星と細い月（月齢 2.8）が
夕方南西の低い空（19時40分以前）で
かなり接近して見えます。
見ごろは18時00分ごろでしょう。
金星も近くにいます。
- ◎ 2月02日 金星と細い月（月齢 3.8）が
夕方南西の低い空（20時40分以前）で
接近して見えます。
見ごろは18時00分ごろでしょう。
土星も近くにいます。
- 2月07日 木星と月（月齢 8.8）が
夕方南の高い空（ 2月08日 2時00分以前）で
接近して見えます。
見ごろは18時00分ごろでしょう。
- 2月09日 ポルックスと火星と月（月齢10.9）が
宵に東の空（ 2月10日 5時50分以前）で
接近して見えます。
見ごろは19時00分ごろでしょう。
- 2月12日 レグルスと月（月齢14.0）が
宵に東の空（17時50分以降）で
接近して見えます。
見ごろは21時00分ごろでしょう。
- ◎ 2月18日 スピカと月（月齢19.2）が
夜半過ぎに南東の空
（ 2月17日23時00分以降）で
接近して見えます。
見ごろは 2時00分ごろでしょう。
- 2月21日 アンタレスと月（月齢22.3）が
明け方南の空（ 1時30分以降）で
接近して見えます。
見ごろは 5時00分ごろでしょう。

※ ◎：非常に接近するか、見た目が特にきれいと思います。

○：見ておもしろいと思います。

△：高度が低かったり、薄明の中であったりで見にくいと思います。
但し、朝焼けや夕焼けと山の稜線も入れて写真にする等
意外とおもしろい可能性はあります。

◇：双眼鏡や望遠鏡で見られます。

★日没

東京での日没は

2月 1日 17時08分

2月 8日 17時15分

2月15日 17時22分

2月22日 17時29分

日の暮れるのが少し遅くなってきた様に感じられます。

1日に1分程度のペースで、少しずつ日の暮れるのが遅くなっていきます。

★今宵の空

日が暮れると（18時～19時ごろ）

冬の星座が出そろっています。

天頂付近 木星、おうし座、ペルセウス座、ぎょしゃ座

南の空

高 オリオン座

中 うさぎ座、はと座、ちょうこくぐ座、ろ座

低 がか座、かじき座、とけい座の一部、エリダヌス座

南西の空

中 くじら座

西の空

高 おひつじ座、さんかく座

中 金星、うお座、アンドロメダ座

低 ペガサス座

北西の空

高 カシオペヤ座

中 とかげ座

北の空

高 きりん座

中 ケフェウス座、こぐま座

低 りゅう座

北東の空

高 やまねこ座

中 おおぐま座、

東の空

高 火星、ふたご座

中 かに座、こじし座、こいぬ座、うみへび座の頭、

低 しし座の頭

南東の空

高 いっかくじゅう座

中 おおいぬ座

が出ています。

★星のお話

とも座 [船尾]

設定者：ラカイユ

P u p p i s (P u p)

面積 : 6 7 3 平方度

《 T h e S t e r n 》^{☆01)} 《 T h e P o o p 》^{☆02)}

とも座を見てみましょう。

とも座は、高度が低いですが、東京辺りでも全体が見られます。

古代メソポタミアや、古代エジプトではこの辺りに星座は無かった様です。

フランスの天文学者ラカイユが、1763年に発表した星表でアルゴ座を
りゅうこつ、とも、ほ、らしんばん、の4つに分けて設定した星座です。^{☆03)}

もともとは、アルゴ座（アルゴ号という大きな船を表した星座）の一部
でした。しかし、アルゴ座があまりにも大きいからといって、

ラカイユが、アルゴ座を、とも座（船尾）、ほ座（帆）、らしんばん座
（羅針盤）、りゅうこつ座（竜骨）の4つの星座に分けてしまいました。^{☆04)}

* 星の並び

とも座は、おおいぬ座の左（東）から下（南）にある星座です。

おおいぬ座の腰の所の3つの星の東側を結んで、その間隔の2倍半程度

延ばしたところに2等星の ζ 、おおいぬ座の腰の所の左（東）側に、

3等星の ρ 、 ξ 、大犬座の下（南）の方に π 、 σ 、 ν 、 τ とありますが、
この辺りはカノープスが見える様なときでないとよく見えません。

おおいぬ座の2倍近くある大きな星座ですが、明るい星が少ないのと、
南の空に低くて、全体が見にくいので、ほとんど目立ちません。

しかし、冬の天の川の中にあり双眼鏡で見ると無数の星が見えます。

特に散開星団が多数あって見あきることがありません。

* 固有名

ζ はナオス「船」^{☆05)}

スハイルハダール^{☆06)}

ξ はアスミディスケ「盾」^{☆06)}

ρ はトライス^{☆06)}

HD 48265 は Nosaxa^{☆07)}

WASP-161 は Tislit^{☆07)}

という名前が付いています。

* 観望

散開星団が多く見られます。

散開星団 M 4 6 (5 c m 双眼鏡) (1 0 c m 望遠鏡)

散開星団 M 4 7 (3 c m 双眼鏡) (5 c m 望遠鏡)

散開星団 M 9 3 (1 0 c m 望遠鏡)

散開星団 N G C 2 4 2 3 (1 0 c m 望遠鏡)

散開星団 N G C 2 4 7 7 (5 c m 望遠鏡)

重星 k 5 c m 望遠鏡^{☆07)}

重星 n 6 c m 望遠鏡^{☆07)}

重星 2 5 c m 望遠鏡^{☆07)}

重星 5 1 0 c m 望遠鏡^{☆07)}

おおいぬ座のシリウスの東の方でおおいぬ座との境界の近くに、

M 4 6、M 4 7、N G C 2 4 2 3、 ξ の近くにM 9 3、

その他も小さい星団が無数にあります。

* 補足

1942年11月に光度0.2等に達する新星が発見されて最も明るい
新星の一つでしたが、現在は肉眼で見ることができません。☆03)

* 神話

ギリシア神話では、イアーソンがコルキスの国の金毛の羊の皮を奪い
に行くために作らせた船アルゴ号ということになっています。
アルゴ座が4つに分けられたうちの1つの星座なので、神話はアルゴ座の
話となります。このアルゴ号の、艫の部分です。

☆01) 【I A U https://www.iau.org/public/themes/naming_stars/】

☆02) 【星座入門 観測の基礎知識 F. ジーゲリ著 田中泰信訳 教養文庫】

☆03) 【天文の事典 小平桂一、日江井栄二郎、堀源一郎、監修 平凡社】

☆04) 【星座手帖 草下英明 社会思想社】

☆05) 【ほしぞらの探訪 山田卓 地人書館】

☆06) 【星座の秘密 前川光 恒星社厚生閣】

☆07) 【Star Names IAU https://www.iau.org/public/themes/naming_stars/】

☆07) 【四季の天体観測 中野繁 誠文堂新光社】

★夜更けの空

夜が更けると(22時～23時ごろ)

春の星座も見え始めます。

天頂付近の空 かに座、やまねこ座

南の空

高 うみへび座の頭、こいぬ座

中 とも座、らしんばん座、ポンプ座

低 ほ座の一部

南西の空

高 火星、ふたご座、いっかくじゅう座

中 オリオン座、うさぎ座、はと座

西の空

高 ぎょしゃ座

中 木星、おうし座

低 おひつじ座、エリダヌス座の一部

北西の空

中 ペルセウス座、カシオペヤ座、さんかく座

低 アンドロメダ座の一部

北の空

高 きりん座

中 こぐま座、りゅう座

低 ケフェウス座

北東の空

高 おおぐま座

中 りょうけん座、うしかい座

低 かんむり座

東の空

高 こじし座、しし座、

中 かみのけ座、おとめ座

南東の空

高 ろくぶんぎ座

中 コップ座、からす座

が出ています。

★惑星

水星は、2月下旬に、夕方西の地平線近くに見えます。

2月8日が外合で、以降夕方西の空に回って3月8日の東方最大離角に向かって、徐々に高度を上げていきます。

2月 1日は、 6時32分に昇ります。

2月 8日は、 6時42分に昇り、 11時54分に南中します。

2月15日は、 17時42分に沈みます。

2月22日は、 18時18分に沈みます。

金星は、夕方南西の空に見えます。

2月 1日は、 20時48分に沈みます。

2月 8日は、 20時46分に沈みます。

2月15日は、 20時39分に沈みます。

2月22日は、 20時26分に沈みます。

火星は、ふたご座にいて、宵に南西の高い空に見えます。

2月 1日は、 22時24分に南中し、 5時53分に沈みます。

2月 8日は、 21時48分に南中し、 5時18分に沈みます。

2月15日は、 21時16分に南中し、 4時45分に沈みます。

2月22日は、 20時46分に南中し、 4時15分に沈みます。

木星は、おうし座にいて、宵に南の高い空に見えます。

2月 1日は、 19時33分に南中し、 2時45分に沈みます。

2月 8日は、 19時05分に南中し、 2時17分に沈みます。

2月15日は、 18時38分に南中し、 1時51分に沈みます。

2月22日は、 18時12分に南中し、 1時25分に沈みます。

土星は、みずがめ座にいて、夕方西の低い空に見えます。

2月 1日は、 19時54分に沈みます。

2月 8日は、 19時30分に沈みます。

2月15日は、 19時06分に沈みます。

2月22日は、 18時43分に沈みます。

天王星は、おひつじ座にいて、夕方南西の空にいます。

2月 1日は、 1時18分に沈みます。

2月 8日は、 0時51分に沈みます。

2月15日は、 0時24分に沈みます。

2月22日は、 23時53分に沈みます。

海王星は、うお座にいて、夕方西の地平線近くにいます。

2月 1日は、 20時45分に沈みます。

2月 8日は、 20時19分に沈みます。

2月15日は、 19時52分に沈みます。

2月22日は、 19時26分に沈みます。

(出没の時刻は東京での目安です)

【スター紹介】

★M46★NGC2437

とも座にある散開星団です。

距離は5930光年、大きさは42光年、見かけの大きさは24' ^{☆08)}で、我々の銀河系内の星団です。

とも座は、天の川が横切っていて、散開星団の宝庫ですが、中でも見逃せないのがM46とM47です。

冬の天の川が見えるほど空の良いところでは、おおいぬ座のシリウスから15°程度東の天の川の中に、ひときわ明るくなった光の固まりが肉眼でも見えます。双眼鏡で、シリウスから東の方へたどっていくと、思わず手が止まってしまう程見応えがあります。

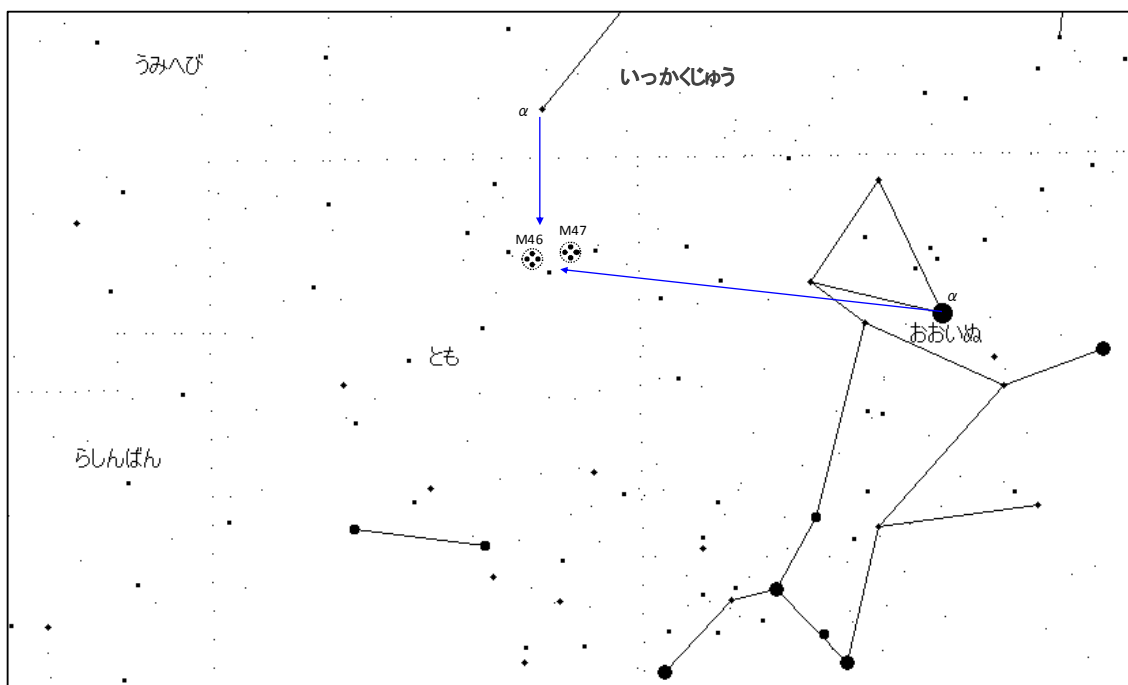
視野の中には滑らかな丸い星雲状のM46と、明るくてザラザラした星の固まり状のM47が並んで見えて、どちらも十分明るくてハッキリと見えて、対比がみごとです。東側の星雲状がM46、西側の星の固まりがM47です。

M46は口径5cm程度の望遠鏡で見ても星雲状ですが、口径10cm程度の望遠鏡で見ると、視野いっぱいに細かい星が広がり密集度の高い星団であることが分かります。

星団の中に、リング状をした惑星状星雲のNGC2438があります。

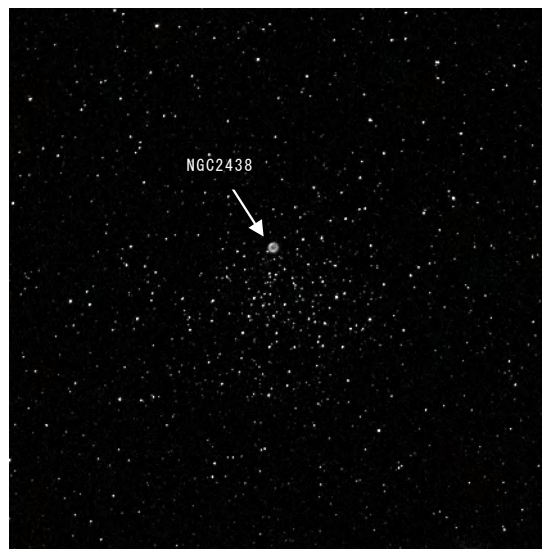
リング状に見るには30cmクラスの望遠鏡が必要ですが、10cm程度の望遠鏡なら円盤状であることは分かるでしょう。

この辺りは、天の川の中で背景の星も美しく、NGCの散開星団が数えきれないほどありますので、双眼鏡でながめているといつまでたっても飽きません。また、高度がやや低く、双眼鏡で見る姿勢も楽なので、防寒対策をしっかりとすると長時間の観望が楽しめます。





M 4 6 口径 1 3 c m にて撮影



6 0 × 程度

☆08) 【天文年鑑 2 0 2 5 年版 天文年鑑編集委員会 編著 誠文堂新光社】

【まめ知識】

★火星の経緯度★

火星の緯度は地球と同じ様に、**自転軸に直交する赤道を基準にして、赤道上を 0° として南北に 90° まで取ります。経度は、1909年1月15日世界時の正午に地球から見て火星の中心を通る子午線の経度を 344.41° とすると決められています。これによると本子午線（基準の子午線）はアリンの爪を通る子午線^{☆09)}でこれを 0° として向かって東の方に 360° まで取ります。地球で言う西経で 360° まで数えることになります。**

火星の自転周期は 24時間37分^{☆08)} で、地球の自転周期 23時間56分^{☆08)} より41分長いだけなので、毎日同じ時刻に観測すると、ほぼ同じ経度の所を毎日見ることができます。また、夕方から朝まで観測すると火星がほぼ半周回って反対側が見えます。

☆09) 【天体観測ハンドブック 鈴木敬信 誠文堂新光社】

☆08) 【天文年鑑 2 0 2 5 年版 天文年鑑編集委員会 編著 誠文堂新光社】

付録

★ α Car（カノープス）南中時刻 2025年（東京）

02月01日	21時17分
02月02日	21時13分
02月03日	21時10分
02月04日	21時06分
02月05日	21時02分
02月06日	20時58分
02月07日	20時54分
02月08日	20時50分
02月09日	20時46分
02月10日	20時42分
02月11日	20時38分
02月12日	20時34分
02月13日	20時30分
02月14日	20時26分
02月15日	20時22分
02月16日	20時18分
02月17日	20時14分
02月18日	20時11分
02月19日	20時07分
02月20日	20時03分
02月21日	19時59分
02月22日	19時55分
02月23日	19時51分
02月24日	19時47分
02月25日	19時43分
02月26日	19時39分
02月27日	19時35分
02月28日	19時31分

それではまた。

参考文献

- ☆01) IAU https://www.iau.org/public/themes/naming_stars/
- ☆02) 星座入門 観測の基礎知識 F. ジーゲリ著 田中泰信訳 教養文庫
- ☆03) 天文の事典 小平桂一、日江井栄二郎、堀源一郎、監修 平凡社
- ☆04) 星座手帖 草下英明 社会思想社
- ☆05) ほしぞらの探訪 山田卓 地人書館
- ☆06) 星座の秘密 前川光 恒星社厚生閣
- ☆07) 四季の天体観測 中野繁 誠文堂新光社
- ☆08) 天文年鑑 2025年版 天文年鑑編集委員会 編著 誠文堂新光社